

強者の戦略

【フランスの政体の変遷はちゃんと覚えていますか？】

こんにちは、夜に炭水化物を抑えてもなかなかやせない北林です。年齢とともに基礎代謝が落ちているようです(泣)。高校生の皆さんは今は健康が一番ですから、バランス良くご飯をたべて体調をキープしてくださいね。

今も全国から「スパルタン」の申し込みがきてます。全国のライバルがインターネット上で集まっています。体験授業も今からできます。ぜひ一度体験してくださいね。

スパルトンのホームページはこちらです(東大も京大も医学部もこちらからです)

→ <http://spartan.kenshinkan.net>

さて課題にしていた問題を確認しましょう。

問題

第二次世界大戦後フランスでは、1946年に第四共和政が成立し、1958年に第五共和政がこれに代わって今日に至っている。この2つの共和政が旧フランス領植民地の独立化の動きに対してそれぞれどのように対処したかを、両共和政の政治形態の違いにも触れながら、200字以内で説明せよ。説明に当たっては、下記の2つの語句を適切な箇所です必ず一度は用いよ。

ディエンビエンフー ド=ゴール

(1997年 京都大学)

さて、まずはフランスの政体の変遷を確認したいと思います。ブルボン朝以降をざっと書いていきますね。皆さんは、それぞれの政体の時期と変遷のきっかけを確認しておきましょう。

ブルボン朝 → 第一共和政 → 第一帝政 → ブルボン家復活 → 七月王政 → 第二共和政 →
第二帝政 → 第三共和政 → 第四共和政 → 第五共和政(現在に至る)

第四共和政は第二次世界大戦後に成立しました。そしてド=ゴールが政権を握ったときに大統領の権限が強い第五共和政となり、現在に至ります。

強者の戦略

《ワンポイントアドバイス》

今回の問題の主問は「この2つの共和政が旧フランス領植民地の独立化の動きに対してそれぞれどのように対処したか」です。

ではまず植民地の独立などについて知識を整理しましょう。

第一次大戦後は中東の西欧列強下での王国成立などを除けば、アジア・アフリカの独立はほとんどありませんでした。パリ講和会議で掲げられた「民族自決」の原則は戦勝国にとって都合のよい範囲にしか適応されず、アジア・アフリカの人達の期待は裏切られ、各地で民族運動に発展します。今回の問題とは関係ありませんが、よく出題されるので皆さんは民族運動をちゃんと確認しておいてください。ガンディーのあの有名な運動も第一次世界大戦後です。

第二次世界大戦後は、植民地帝国であった英仏の力は弱くなり、多くの植民地が独立しようとします。もちろん人々の独立への思いを突き動かすのが「民族自決」。東南アジアなどでは太平洋戦争(日本では大東亜戦争と呼んだ)で日本が長年にわたる白人支配に終止符を打ち(日本の支配は3・4年程度)、日本が撤退すると旧宗主国が戻ってきますが、アジアの人々は独立戦争を勝ち抜き、独立を勝ち取っていきます。ここまでは大丈夫ですね。

ではフランスの場合です。フランスはホーチミンらのベトナム民主共和国の独立に対しインドシナに介入し、インドシナ戦争を戦います。この戦争のときにベトナム国を立てていることは知っていますね。1954年にジュネーブ休戦協定で撤退、独立を承認することになります。アメリカはその後にインドシナの地域に介入を続け、ベトナム戦争を引き起こすことになります。アフリカではフランスはアルジェリアなどの植民地を持っていましたが、このアルジェリアでも抵抗運動がおこり、フランスはこの対応に追われます。

今回の問題のもう一つの問いが「両共和政の政治形態の違いにも触れながら」なんですが、第四共和政は11年ほどと、短い。実はかなり不安定で、11年のうちに20回ほど内閣が変わっている。近年の日本の政治もびっくりなほどです。そんな不安定な体制にかわり現れたのが第五共和政。ドゴールが始めます。第五共和政のポイントは大統領の権限が強いこと。そうすれば不安定な状態は避けられます。

以下、「京大スパルタン」で使用した構成メモの画面です。

強者の戦略

第四共和政・第五共和政 旧フランス植民地の独立化にどのように対処したか 共和政の政治形態の違いにも触れながら

	第四共和政	第五共和政
植民地 には？	独立を認めない インドシナ戦争 ディエンビエンフー陥落 →ジュネーブ休戦協定 アルジェリア戦争 対処できず	各地の独立を認める アルジェリアの独立を承認 (エヴィアン協定)
政治 形態	議会の権限が強く不安定 小党分裂状態 (短命内閣が乱立)	ド＝ゴールにより大統領の 権限が強化された憲法が成立

植民地についてですが、第四共和政は独立を認めたくなかった。当時はフランス連合などをつくり植民地だったところをどうしても自分たちの勢力下においておきたかったんです。でもインドシナ戦争がおこり最終的には独立を認めた。そして1830年代から植民地であったアルジェリアでも運動がおこり、しかもこれを鎮圧にいった軍隊が現地の人とともに反旗を翻してしまいます。しかも「ド＝ゴール万歳」を叫んで。アルジェリアの反乱軍も第四共和政にイライラしていたんですね。

第四共和政は不安定な内閣が続いたため対処ができませんでした。そこで第四共和政に反対して政治の舞台から退いていたド＝ゴールに対し、当時の政府は首相への出馬を要請します。ド＝ゴールが全権を掌握すると、アルジェリア総督府から「私は諸君を理解した！」と叫んで反乱の收拾にあたりました。

ド＝ゴールは大統領の権限の強い第五共和政をスタートさせ、1962年にはエヴィアン協定でアルジェリアの独立をみとめて混乱を收拾します。他の植民地にも第五共和国憲法では大幅な自治を認め、最終的には1960年策には多くの植民地の独立を認めています。これ以降フランスは、独立戦争などで国力をすり減らすことなく、また独立した国々に影響力を及ぼすことができるようになりました。

第五共和政は大統領の権限が強いことが特徴。今でも外交のことがニュースで流れるとき、フランスでは大統領のほうをよく見かけるので、何となくその辺がわかっている人もいるかな？

さて、解答例を提示しておきます。200字程度の短い文章でも、構成メモをしっかりと作り、隙のない解答を考えていきましょうね。

強者の戦略

《解答例》

第四共和政は議会の権限が強く、小党分裂状態で、内閣も短命・弱体な政権が続き、また植民地の独立運動を抑圧した。インドシナ戦争では1954年のディエンビエンフー陥落を契機にインドシナから撤退。その後アルジェリア独立紛争が激化すると政権は混乱した。その解決を期待されたドゴールが、議会を弱めて大統領の権限を強化した憲法を制定して第五共和政を成立させた。各地の独立運動を容認、62年にはアルジェリア独立を承認した。(200字)